2025

教育実践総合センターレポート

no.45

大分大学 教育学部附属教育実践総合センター

目　　次

1　ごあいさつ.....1

2　教育実践総合センター概要.....2

3　教育実践総合センターの機能と取組.....4

【Ⅰ　教育実習や体験的な教育活動の指導】.....4

【Ⅱ　教師育成サポート推進室事業】.....8

【Ⅲ　研修及び調査研究支援】.....10

【Ⅳ　附属学校園との連携・支援】.....12

【Ⅴ　教育・研究活動】.....23

【Ⅵ　センター刊行物】.....27

【Ⅶ　施設活用（施設利用状況）】.....29

4　センター規程，紀要の編集・発行及び投稿に関する内規.....30

1　ごあいさつ

2024（令和 6）年度の実践センターでは，目まぐるしく変化する教員採用試験に対応した教員養成支援や，学校現場の課題に応える指導助言などを行ってまいりました。また，附属校園との連携・支援においては，大学と附属校園が相互の需要に応えるかたちで協力体制を維持しています。その連携には，実践センターが発行する人材バンクの活用が貢献していると感じております。

まなびんぐサポート事業では，前年度を大きく上回る 15 校への派遣と，33 名の学生参加がありました。この事業では，大分市の公立校からは子どもたちへの学習補助や授業準備への支援が期待され，参加学生にとっては公立校の現場で長時間過ごすことにより，教育実習では経験できない多様な場面に出会う貴重な機会となっています。これは双方にとって非常に意義深い活動であるといえます。

教師育成サポート推進室が行う教員養成支援も，学部の就職進路支援室と連携し，互いの強みを生かした教員採用試験対策を進めてまいりました。これらの取り組みは一朝一夕に実現するものではなく，多くの先生方が試行錯誤を重ねて築き上げた成果であると拝察いたします。2024 年度に開催された九州地区教育実践研究協議会においても，教員採用試験における学生支援体制の在り方が議題に挙げられており，各大学の課題となっているようです。

本センターの構成員は，センター長を含む 4 名で活動しております。少人数ならではの機動力を活かし，学内外の多様化する教育現場に迅速に対応できるよう努めてまいります。

今後とも，ご支援・ご協力を賜りますよう，よろしくお願い申し上げます。

大分大学教育学部附属教育実践総合センター

センター長　廣瀬 剛

大分大学　教育学部附属教育実践総合センター

2　教育実践総合センター概要

大分大学教育学部附属教育実践総合センターは，1979（昭和 54）年に教育実践研究指導センターとして開設以来（2001（平成 13）年に改称），教育実践に関する理論的・実践的研究を行うとともに，教育実践の指導力を身に付けた教員の養成を担ってきた。なかでも，大分県から派遣された現職教員を客員研究員として受け入れ実施した教育実践研究の指導は，2014（平成 26）年度まで多くの教員を育成した。1 年間の研修を終えた研修生は，大分県内の教育現場の多方面で活躍している。

2016（平成 28）年度の学部改組では，さらに体制強化を図り，教育実践，発達教育臨床の 2 部門を主たる業務とし，併せて「まなびんぐサポート」，「教師育成サポート」の抜本的な見直しを図った。なお，2020（令和 2）年度より，専任教員の異動のため，発達教育臨床部門は休止中となっている。

現在，専任教員 3 名，非常勤講師 2 名体制で，調査研究支援，研究・広報活動，学部・大学院への参与，附属学校園との連携，県・市町教育委員会との連携等，広範囲な業務を担っている。

1　所在地

住所　〒870-0819　大分県大分市王子新町 1 番 1 号
Tel　097-543-4933
Fax　097-543-4936
URL　https://www.ed.oita-u.ac.jp/shisetsu/center/

2　構成員

<センター長>

教授　廣瀬 剛

<発達教育臨床部門>

<教育実践開発部門>

教授　麻生 良太
准教授　森下 覚
講師　前田 菜摘
非常勤講師　加地 伸二
非常勤講師　工藤 真久
事務補佐員　小野 目依

3　事業の概要

【Ⅰ 教育実習や体験的な教育活動の指導】

1　教育実習の指導

・事前事後指導の企画・運営

・授業計画・実施における指導・助言

2　体験的な教育活動（教育支援実践研究Ⅰ・Ⅱ）の指導

【Ⅱ 教師育成サポート推進室事業】

1　教師育成サポート推進室主催講座

2　教師育成サポート推進室教員採用試験個別対策講座

【Ⅲ 研修及び調査研究支援】

1　研修支援

・大分市教育センターから依頼された教職員研修

2　研究及び調査研究支援

・大分県教育センター長期派遣研修生の研究支援

・大分県教育センターにおける調査・研究支援

・大分市教育センターにおける調査・研究支援

【Ⅳ 附属学校園との連携・支援】

1　附属幼稚園

2　附属小学校

3　附属中学校

4　附属特別支援学校

【Ⅴ 教育・研究活動】

1　学部への参与

2　他学部・大学院への参与状況

3　県・市町村教育委員会との連携状況

4　附属学校園との連携

5　社会貢献

6　外部資金等導入状況

【Ⅵ センター刊行物】

1　教育実践総合センター紀要

2　教育実践総合センターNews　Edu-ta!

3　教育実践総合センターレポート

4　人材バンク

【Ⅶ 施設活用（施設利用状況）】

※　発達教育臨床部門は現在休止中である。

3　教育実践総合センターの機能と取組

【Ⅰ　教育実習や体験的な教育活動の指導】

1　教育実習の指導

教育実習をより効果的に実施するために，教育実践総合センターでは，学部3年次に教育実習の事前指導・事後指導を企画している。

2021（令和3）年度までは，学部3年次の主免の教育実習は小学校と特別支援学校のみであった。学部改組により初等中等教育コース・特別支援教育コースとなった学生が3年次になる2022年度から，初等中等教育コースは主免1として小学校，そして主免2として幼稚園または中学校に実習と，3年次後期に2回教育実習に行くことになった（特別支援教育コースは本免として3年次に特別支援学校への実習へ行き，4年時に基礎免として小学校へ実習）。なお，主免1の小学校への実習については，約4分の1の学生が公立の小学校で実習を行うこととなっている。

こうした変更の中，教育実践総合センターが担当する教育実習の事前指導・事後指導の企画・運営は初等（小学校）に特化することで，よりきめ細かい指導ができるようにしている。

教育実習事前・事後指導では，実習先で学ぶ内容が実習校で大きく異なることのないように，各実習校の実習担当者と打ち合わせを行い，計画を立てるよう配慮を行った。その際，各実習校の実習担当者の先生方，特に附属小学校の先生方には，指導案の書き方や，ICT 活用,授業記録の取り方や授業の見方等の講義を担当していただいた。大学側においても，事前指導案を作成する時間を2コマ事前指導において確保し，各教科の先生方に指導・助言をいただく時間を取ることで，実習へ向けての準備がさらに充実する取組となった。

2024年度	実施内容	対象・人数
	主免教育実習（初等）　事前指導	学部3年生
5月22日	オリエンテーション～教育実習の意義と心得～	145人
5月29日	授業記録の取り方・分析について①	
6月　5日	授業記録の取り方・分析について②	
6月19日	授業づくり及び学習指導案作成について	
	ICT 活用及び板書について	
7月17日	学習指導案作成演習	
	主免教育実習（初等）　事後指導	
11月27日	教育実習を終えて	
12月　4日	学校の現状と教師の課題	
	教職展開ゼミ　事前・事後指導	学部2年生 145人

2　体験的な教育活動の指導

教育支援実践研究Ⅰ・Ⅱは，「まなびんぐサポート」事業への参加を単位履修の条件としている科目である。「まなびんぐサポート」事業は，2004（平成 16）年 3 月の「大分市現職教員教育等連携推進会議」において大分市教育長と大分大学教育福祉科学部長との間で学生ボランティア派遣事業が合意されたことを受けて開始した事業である。同年 10 月の事業開始から，学校現場からの支援要請に応える形で地域の学校園に大学生を派遣してきており，2024（令和 6）年度で 21 年目を迎えた。

「まなびんぐサポート」事業の目的は，教職志望学生が学校現場において教師の仕事を見る，あるいは実際に子どもを支援することで学び，自身の教育観・子ども観・授業観などを育むとともに「実践的指導力」を身につけることである。主に附属学校園で 1 ヶ月程度行う教育実習とは異なり，本事業では地域の公立校園において最長 6 ヶ月間にわたって定期的活動を行うため，長期的な子どもの変化や成長，子どもが抱える気持ちや考え，課題などを理解する姿勢を学ぶことができる。また，授業中の学習支援や休み時間に子どもと交流することでその成長を促すための学習指導のあり方，生徒指導のあり方を体験的に学ぶことができる。以上のように，本事業を通して，参加学生は教育実習を補完する形での学びが期待されている。

2024 年度は，事業開始日を 9 月 1 日から 2 学期開始日とすることでよりスムーズな活動開始を実現するとともに，中間指導を中間事後指導と改称し，すでに活動を終了している学生にとっても意義のある省察機会となるよう留意した。

●2024 年度の事業実施スケジュール

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
・活動受け入れ校の募集	・学生向け参加説明会	・事前面談 ・参加希望者の登録	・活動先への挨拶回り ・活動先の決定	・活動校への事前挨拶 ・事前指導	活動期間	活動期間	活動期間	・中間事後指導 ・中間訪問	・期末レポート	活動期間	活動期間

●2024 年度の参加者数と派遣校園数

2024 年度は 33 名（3 年生 23 名, 4 年生 10 名）が 15 校園で活動を行った。

以下に，過去 3 年間の参加学生数と活動校園数を示す。

表　参加学生数と活動校園数（2022～2024 年度）

	参加学生数			活動校園数				
	3 年生	4 年生	**合計**	幼稚園	小学校	中学校	義務教育学校	**合計**
2022 年度	11	4	**15**	0	8	1	0	**9**
2023 年度	13	4	**17**	0	11	0	1	**12**
2024 年度	23	10	**33**	0	13	2	0	**15**

●参加学生事後アンケート（2024 年 12 月～2025 年 1 月に実施　33 名中 30 名が回答）

①まなびんぐサポートに参加して，どの程度満足しましたか

「非常に満足している・満足している・不満である・非常に不満である」の 4 段階

【非常に満足している】22 名【満足している】8 名

・生徒との関わり方を学んだり，先生方の授業以外の仕事を把握したりすることができ，現場に出た際の具体的なイメージができたから。

・実習以外で教育現場に行くことができ，実習とは違い，自分が学びながらも学校や子どもたちに求められていると感じられたから。

・活動校の先生方は，円滑な活動を行うために様々なサポートをしてくださった。また，活動を行う上での不安なことや急な予定変更等の事案に，大学の先生方が親身になってサポートしてくださってとても有意義に活動を行えた。

②まなびんぐサポートに参加したことで教員を目指す気持ちがどのように変化しましたか

「非常に強くなった・やや強くなった・変わらない・やや弱くなった・非常に弱くなった」の 5 段階

【非常に強くなった】14 名【やや強くなった】13 名【変わらない】3 名

・実習を通して学んだことを活用しながら，活動に取り組めたことで，教員として働くことに対する自信がより強くなったため。

・実際に子どもたちと接することで，子どもたちの笑顔や「できた！」という嬉しそうにする様子をみて，まだまだこうした子どもたちの姿を見ていたいと感じたからです。

・活動校の先生方の連携，授業中の工夫放課後等の準備時間について知ることができて，自分の働くことについて不安が少し無くなったからです。

●活動校事後アンケート（2024 年 12 月～2025 年 1 月に実施　15 校中 15 校が回答）

①学生の活動にどの程度満足しましたか

「非常に満足している・満足している・不満である・非常に不満である」の 4 段階

【非常に満足している】15 校

・複数での対応が必要なときに，サポートがもらえる。配慮が必要な児童に対しての対応が手厚くなる。

・児童に対する理解と深い愛情で教育に対して前向きに取り組もうとする姿が非常に良かった。

・学生自身が学校現場での生活を楽しみながら，児童育成に関与できており，児童も教職員も，その存在に刺激をうけ，有難みを感じている。

②来年度以降も「まなびんぐサポート」の学生受入を希望しますか

「強く希望する・希望する・希望しない・全く希望しない」の 4 段階

【強く希望する】14 校【希望する】1 校

・本校にとっても，教職を目指す学生にとっても，非常に意義のある取り組みであるから。

・慢性的に人員不足であるため，学生さんの支援は本当にありがたいと感じるから。

・歳の近い学生の存在が，生徒に活気をくれる。質問等もしやすそうな場面が見られた。

・学生にとって，実習と違う意味合いの中で学校現場で過ごすことができるよい機会になると思うから。

【Ⅱ　教師育成サポート推進室事業】

教師育成サポート推進室は，教育実践総合センター長及び３名のセンター教員（麻生，前田，森下）で構成されている。学部３年～大学院生の学生を対象にし，理想の教師像をイメージし具体化するまでのプロセスを支援する「教サポ室主催講座」と，教員採用試験の個別ニーズに対応した指導を行う「教サポ室教員採用試験個別対策」を展開している。2024 年度の参加登録学生数は 233 名であった。

参加登録学生数

学年	M2	M1	4	3	2	合計
人数	0	2	118	115	0	235

1　教師育成サポート推進室主催講座

教サポ室主催講座の延べ参加人数は 204 名であった。教サポ通信では，教員採用試験受験者を対象にして，学生のニーズに沿った講座を実施した。教サポ講座では教師力を育成する教師力講座，教員採用試験対策の導入となる先輩の教採体験談の動画配信や，春の教サポ講座を開講した。

教師育成サポート推進室主催講座

日時	講座名	参加教員	参加人数
6 月 21 日 3 限@300	大分県自己紹介書の書き方講座	森下，前田	43
11 月 26 日（火）6 限@303	教師力育成講座① 人間関係作りプログラムを学ぼう	麻生，加地	3
11 月 27 日（水）6 限@303	1 年生でも OK！90 分で分かる教員採用試験	森下，前田	18
12 月 3 日（火）6 限@303	教師力育成講座② 先輩教師から教師生活を学ぼう	麻生，加地	4
12 月 11 日（水）4 限@303	先輩の教採体験談を聞く講座① 大分県小学校受験予定者向け	森下，前田	4
12 月 17 日（火）6 限@303	教師力育成講座③ 学級経営を学ぼう	麻生，加地	6
12 月 18 日（水）6 限@303	先輩の教採体験談を聞く講座② 県外小学校受験予定者向け	森下，前田	3
12 月 25 日（水）4 限@303	先輩の教採体験談を聞く講座③ 中高特受験予定者向け	森下，前田	8
1 月 14（火）6 限@303	教師力育成講座④ 保護者対応を学ぼう	麻生，加地	5

3 月 19 日（水） 2 限@100	春の教サポ講座(新 4 年生対象)① 教採対策イロハ	森下，前田	33
3 月 21 日（金） 6 限@100	春の教サポ講座(新 4 年生対象)② 模擬授業等（模擬指導・場面指導含む）対策①	森下，前田	30
3 月 24 日（月） 6 限@100	春の教サポ講座(新 4 年生対象)③ 模擬授業等（模擬指導・場面指導含む）対策②	森下，前田	20
3 月 27 日（木） 6 限@100	春の教サポ講座(新 4 年生対象)④ 願書対策	森下，前田	15
3 月 28 日（金） 6 限@100	春の教サポ講座(新 4 年生対象)⑤ 面接対策	森下，前田	12
		合計	204

2　教師育成サポート推進室教員採用試験個別対策

教サポ室教員採用試験個別対策の延べ参加人数は 433 名であった。個別対策は，教師育成サポート推進室の委員(森下，麻生，前田)3 名に，非常勤講師の加地・工藤 2 名を加えた計 5 名で，模擬授業対策・場面指導，集団討論・グループワーク対策，論作文指導，願書添削，面接指導を実施した。

教師育成サポート推進室教員採用試験個別対策

	模擬授業等	集団討論 ｸﾞﾙｰﾌﾟ ﾜｰｸ	論作文指導	願書添削	面接指導	合計
4 月	35	4	1	17	46	103
5 月	37	4	1	24	37	103
6 月	28	4	0	22	45	99
7 月	29	3	5	14	55	106
8 月	4	0	0	2	16	22
合計	133	15	7	79	199	433

3　教師育成サポート推進調査分析（タイトルのみ）

・4 月の教採対策状況について
・全国の教員採用試験志願者の増減について
・文科省提供の問題を利用した試験の実施について
・次年度の 1 次試験の日程について
・2024 年度模擬授業（模擬指導）における課題の分析
・2024 年度面接における課題の分析

【Ⅲ　研修及び調査研究支援】

1　研修支援

⑴　大分県教育センターから依頼された教職員研修

月　日	実施内容	大学教員名
7 月 10 日	新任指導教諭研修	森下 覚
9 月 6 日	フォローアップ研修	森下 覚

⑵　大分市教育センターから依頼された教職員研修

月　日	実施内容	大学教員名
5 月 21 日	研究主任研修	麻生 良太

2　研究及び調査研究支援

⑴　大分県教育センター長期派遣研修生の研究支援

教育実践総合センターでは，大分県教育センターと連携し，大分県教育センターに長期派遣研修生として 1 年間配属される教員に対し，研究への指導・助言を行っている。長期派遣研修とは，大分県教育の振興と教員の専門的資質の向上に資することを目的とし，公立学校の教諭等が，実践的研修を行うものとされる。教育実践総合センターからの指導・助言の内容は，研究の進め方（先行研究をふまえて自身の研究のオリジナリティをどう設定するか，仮説をどのように立てるか），データの取り方，分析の仕方，論文の書き方（引用参考文献の示し方）等であった。

月　日	実施内容	大学教員名
8 月 19 日	中間報告検討会指導	廣瀬 剛，麻生 良太，森下 覚，前田 菜摘
2 月 19 日	研修成果発表会指導	
研修生	研究テーマ	
藤岡 美樹	思いや意図をもって音楽表現をする力を育む小学校音楽科歌唱授業の在り方 ―「音の絵図」を用いた活動を通して―	
川津 智弘	特別支援教育における ICT を活用した「個別最適な学び」 ―ロイロノートを活用した小学校実践―	

⑵　大分県教育センターにおける調査・研究支援

実施内容	大学教員名
「組織的な学校課題解決に向けた校内研究・校内研修」の推進に関する調査研究	大島 崇 前田 菜摘

⑶　大分市教育センターにおける調査・研究支援

教育実践総合センターは，大分市教育センターと共に作業部会，専門部会，大分市現職教員教育等連携推進協議会を開催し，現職教員の資質向上を図る研修プログラムの開発・充実を目的とした協議を進めている。2024 年度の研究テーマは「学生及び教員の授業力向上に向けた評価の在り方～「大分県公立学校教員育成指標」を踏まえた「授業力自己評価表」等の見直し～」（1 年目）であった。

月　日	実施内容
6 月 21 日	第 1 回作業部会：授業力自己評価表の見直し，まなびんぐサポートについての協議
7 月 11 日	第 1 回専門部会：連携の取り組みについての確認，作業部会の報告
11 月 18 日	第 2 回作業部会：授業力自己評価表の見直し，まなびんぐサポートについての報告・協議
12 月 16 日	第 2 回専門部会：連携の取り組みについての中間報告，作業部会の報告，連携推進協議会の議題等の検討
2 月　4 日	大分市現職教員教育等連携推進協議会
3 月 19 日	第 3 回作業部会：次年度の方向性についての協議

【Ⅳ　附属学校園との連携・支援】

1　附属幼稚園

1.教育目標

主体的に生きる子どもの育成

2.研究テーマ

主体的な遊びを支える保育を目指して（1 年）

～なかよしタイムを通して，多面的な視点から幼児理解を深める～

本園では，教師一人一人が日々の保育を見つめ，園の研究テーマの共通理解のもと，自己課題をもって研究に取り組むことが，保育力の向上とともに，保育の質の向上につながると考えています。今年度からは『主体的な遊びを支える保育を目指して』を研究テーマとし，実践を進めているところです。

日々の保育を振り返り，子どもが主体的に遊ぶ保育を展開していくためには，学年単位になっている遊びの場を広げること，子どもが遊びを選択できる環境をつくること，自分で決定できる機会を増やすこと，多様な人とのかかわりをもてるようにすることなど，保育環境を変化させることが必要だと考えました。

そこで，どのように過ごすか自分で決めることができる遊びの時間,自分で選ぶことができる遊びの場，他のクラスの友だちや先生とかかわりをもつことができる機会，これらの要素を含んだ「なかよしタイム」（異年齢児交流の場）を意図的に取り入れることで，時間・空間・仲間の 3 つの「間」を広げ，その中から子どもたちの主体的に遊ぶ姿を見取り,情報共有をしながら幼児理解を深めていくよう取り組んでいます。

今日の実践から主体的に遊ぶ姿を，自分から何かをやりたいという気持ちを高めていく姿やその気持ちを他者に表出する姿，自分で考えて決め，繰り返し取り組む姿などと捉え，全教員の多面的な視点で見取った姿を考察し，環境の構成や援助につなげています。

大学教員のサポートも得ながら研究を進め，「子どもの主体性」と「教師の主体性」が共に成長していけるような保育をめざしています。

3.めざす子ども像

◯心豊かなやさしい子ども

3 歳児／身近な環境に自分なりにかかわり親しむ

4 歳児／物事の美しさや不思議さ，人の温かさに触れ，思いを素直に表現しようとする

5 歳児／身近な環境に進んで働きかけ，親しみや思いやりをもってかかわろうとする

◯工夫し遊びを楽しむ子ども

3 歳児／安定した気持ちで，友だちと時々かかわりながら遊ぶ

4 歳児／自分なりの思いや考えをもち，友だちと一緒に遊ぶ

5 歳児／共通の目当てをもち，友だちと遊びをつくり出す

◯明るく伸び伸びと生活する子ども
3歳児／いろいろなことに興味をもち，自分でしようとする
4歳児／いろいろなことに自分から取り組み，一生懸命しようとする
5歳児／いろいろなことに自分たちで意欲的に取り組み，やり遂げようとする

＜大学―附属幼稚園との連携の実際＞

月　日	実　施　内　容	大学教員名
毎週木曜日 年間5回	園内研究への指導・助言	永田 誠
毎週木曜日 年間21回	園内研究への指導・助言	向井 隆久
6月8日	保育研究協議会　講師	藤田 敦
6月8日	保育研究協議会　助言者	齊藤 友子
6月8日	保育研究協議会　助言者	向井 隆久
6月8日	保育研究協議会　助言者	麻生 良太
9月	PTA子育て講演会	永田 誠

2　附属小学校

1. 学校教育目標
グローカルリーダー(Think globally, act locally)の育成
～未来へ向かって高い志を持ち、人や社会と豊かに関わり、自己を磨き高め合う子どもの育成～

2. 重点目標
(1)生きて働く知識・技能の習得
・すべての学習の基盤となる言語能力
・人間関係を豊かにし、社会生活を円滑におくる文化としての礼儀やマナー
・目標に向かって粘り強く取り組む忍耐力や持久力
(2)未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力の育成
・情報を整理・分析し、組み合わせて新しい関係性を創出する情報活用能力
・社会や集団の一員として自分の役割を果たそうとする「公(公共)」の意識
・自分の心身や自己の学びを振り返る自己認知力(メタ認知)
(3)グローカルな視点をもち、世界やふるさとに貢献できる人間性の涵養
・協働したり、折り合いをつけたりする調整力
・異なる意見や立場を尊重する寛容の心
・自ら正しいと信じるところに従って主体的に行動する自律性

(4)働き方改革の推進

・改革マインドの継続（スクラップ&スリム、勤務時間の適正化）

・学校組織マネジメントの充実（地域の中核をになう教員の育成）

・更なる改革に向けた学校評価と PDCA サイクルの充実（学校評議員会等）

3. 重点的取組

(1)すべての教育活動を下支えする安全・安心な学校の実現

①学校の安全・安心

・健康安全情報の共有、安全点検・安全確認の徹底。全職員による高い当事者意識。管理職と各担当者との連携のもと行う初動を誤らない危機対応・危機管理体制

・防犯・救急救命研修の充実、防災訓練等の安全に関する教育の推進・組織的ないじめ対策・不登校対応（SC、SSW 等専門スタッフとの連携）・困りのある児童へのチーム支援（教育相談・個別の支援、巡回相談の活用等）

②共感的人間関係を醸成する指導

・主体的、積極的に「きく」指導（フリートーク、褒め言葉のシャワー等）

・取組を価値づけ、成長を実感させる指導（価値語、成長ノート等）

・共生社会を見据えた交流・体験、多様性の学習（人権教育）

③公共の意識の醸成と「真の力」に向かう指導（なんのため?だれのため?どんなよさがある?）

・公で通用するための基礎を培う 3 つの取組(挨拶、掃除、はきものそろえ）

・班活動・係活動・委員会活動・チーム活動による役割遂行（一人ひとりがそれぞれのリーダー、フォロアーとリーダーが「信頼と尊敬」でつながる人間関係）

(2)地域のモデル校としての魅力ある学校づくりの推進

①自己調整学習の推進

・児童が自ら見通しをもって学びの計画を立て、学び方がどうだったのかを、より深い内容で振り返られる授業実践。

・児童が自分に適した方法や情報を選択・判断・決定できる環境づくりを意識した授業の構築。

②外国語教育の一層の充実 ・学校の特色として、全学級で取り組む外国語・外国語活動の授業 ・外国の方と交流する活動、外国語で発信する活動の推進

③地域と繋がり教科を横断する「生活科・総合的な学習の時間」の実践・発信

・自然や生命に直接ふれ、人や実社会と直接関わるなど、具体的な活動や体験の中で、子ども自らが問題に「気づき」、「問い」を見出し、問題解決していく授業づくり

・グローカルな視点をもって地域の課題や現代的な課題に取り組み、言語能力や情報活用能力を活用しながら問題解決していく探究学習の充実

(3)教員の力量を高め、持続的・発展的に進める授業改善

①地域教育への貢献

・大分県教育委員会や大分大学と連携強化した単元構想による授業改善及び省察的実践

・授業公開等（指導主事や大学教授による助言等）

・指導教諭・研究主任等の授業観察や日常的な授業公開(授業観察シートの活用)

・子どもの声で活動をつくり子どもの姿(学びの文脈)で見取る

②新たな教師の学びの姿(学び続ける教師)に向けた授業改善

・年間を通じた「学び合い」の推進（メンター・メンティーの互恵的な学び）

③教育活動の質の向上をめざすカリキュラムマネジメント推進

・全教科等での思考ツール活用、カリマネタイムの設定、資質能力マトリクスの活用

④自学自習ができる「自律した学習者」をめざした学習指導の充実

(4)使命や要請に応えることのできる学校組織の構築

①附属学校園機能強化方針（令和６年４月~）に基づく連携・協力

・四校園共通のめざす子ども像に向けた附属幼・中・特、及び大学との連携・協力

・研究成果の地域還元に向けた教育委員会、教育関係機関等との連携・協力

・子どもの自主性・主体性向上に向けた PTA、後援会等との連携・協力

②教員養成機能の充実

・教員志望者を生む教育実習(教職の魅力、児童の魅力に触れる）

③地域の中核をになう教員の育成

・主幹教諭、統括学年主任を中心としたミドルアップダウンによるスクールリーダーの育成

・学年と部会をつなぎ、組織力で教育活動を展開するミドルリーダーの育成（生活指導マネジメントプランシート等)

・学校改善・業務改善に向けた一人ひとりの学校経営参画意識（課題・ビジョンの共有）

・特別な配慮や支援という側面から学校経営に参画する教員意識の醸成

・ICT 活用・教育データ活用研究の組織的な推進

・服務規律の徹底（個人情報の適切な管理、非違行為 0、ハラスメント撲滅）

＜大学―附属小学校との連携の実際＞

月　日	実　施　内　容	大学教員名
4 月 30 日	道徳科授業の指導案審議	黒川 勲，吉野 敦
5 月 10 日	公開授業協力者	吉野 敦
5 月 10 日	公開授業協力者	川嵜 道広
5 月 17 日	公開授業協力者	大谷 由布子
5 月 24 日	公開授業協力者	大塚 道太
5 月 24 日	公開授業協力者	藤井 康子

5 月 30 日	公開授業協力者	清水 慶彦
5 月 30 日	公開授業協力者	花坂 歩
5 月 31 日	道徳科授業のふりかえり 指導案審議	吉野 敦
6～7 月	児童観察・発達検査	佐藤 晋治
6 月 5 日	教育実習事前指導（引率）	麻生 良太，渡邊 大貴 安道 百合子，前田 菜摘
6 月 7 日	公開授業協力者	渡邊 大貴
6 月 7 日	公開授業協力者	麻生 良太
6 月 12 日	外国語活動・外国語科　異文化交流（留学生自己紹介・児童の質問等）	長池 一美
6 月 13 日	打合せ	長谷川 祐介
6 月 14 日	公開授業協力者	三次 徳二
6 月 14 日	公開授業協力者	財津 庸子
6 月 19 日	教育実習事前指導 （学習指導案作成・ＩＣＴ活用と板書）	麻生 良太
6 月 21 日	公開授業協力者	伊藤 安浩
6 月 21 日	公開授業協力者	長谷川 祐介
6 月 24 日 ～6 月 28 日	観察実習引率・参観	麻生 良太，渡邊 大貴 安道 百合子，前田 菜摘 河村 真由美
7 月 1 日 ～7 月 5 日	観察実習引率・参観	麻生 良太，渡邊 大貴 安道 百合子，前田 菜摘 河村 真由美
8 月 20 日	卒業論文打合せ	長谷川 祐介
9 月本実習 前半	教育実習　実習参観 教育実習　学年研事後指導	麻生 良太，渡邊 大貴 安道 百合子，前田 菜摘 河村 真由美，三次 徳二 大野 貴雅，藤井 康子 藤原 耕作，大谷 由布子 青柳 かおり，萩嶺 直孝
9 月 9 日	教職実践演習打合せ	黒川 勲
9 月 25 日	教職入門ゼミ打合せ	三次 徳二
10 月本実習 後半	教育実習　実習参観 教育実習　学年研事後指導	麻生 良太，渡邊 大貴 安道 百合子，前田 菜摘 河村 真由美，三次 徳二 住岡 敏弘，川嵜 道広

		吉野 敦，鄭 敬娥 大塚 道太
10 月 2 日	算数授業の指導案審議	川嵜 道広，河村 真由美
10 月 7 日 10 月 23 日 10 月 30 日	教職入門ゼミ	三次 徳二
10 月 23 日	教職実践演習	黒川 勲
10 月 24 日	防災、減災についての講話 大分県災害データベースの活用方法	鶴成 悦久，岩佐 佳哉
11 月	大分大学教育学部附属教育実践総合センター紀要　投稿論文添削	大塚 道太
11 月 5 日	卒業論文打合せ	斉藤 友子
11 月 6 日	教職入門ゼミ	三次 徳二
11 月 7 日	算数授業の指導案審議	川嵜 道広，河村 真由美
11 月 8 日	授業参観	大塚 道太
11 月 30 日	外国語セミナー授業参観・事後研参加	大谷 由布子，酒井 佐知子
12 月 3 日	卒業論文打合せ	斉藤 友子
12 月 5 日	歌声発表会指導・講評	栗栖 由美子
12 月 5 日	打合せ	長谷川 祐介
12 月 12 日	板書指導演習	三次 徳二
12 月 12 日	外国語活動・外国語科、総合的な学習の時間（インタビュー、児童から大分のおすすめ紹介　等）	長池 一美
12 月 13 日	廃材アートについて ゲストティーチャー	市原 靖士
12 月 17 日	道徳科の授業参観・授業のふりかえり	吉野 敦
12 月 25 日	共同研究 　第 5 学年体育科ゴール型 　授業づくり事前指導	大塚 道太
1 月～3 月 計 12 回	共同研究 　第 5 学年体育科ゴール型 　授業参観・事後指導	大塚 道太
1 月 23 日	環境のために生活の中で私たちができる事 染色実験	都甲 由紀子，森下 覚
1 月 24 日	特別活動公開授業参加	長谷川 祐介，藤村 晃成
1 月 27 日	共同研究 　第 5 学年体育科ゴール型	大塚 道太

	授業づくり事前指導	
1月28日	授業研究	渡邊 大貴
1月29日	授業参観・事後研	川嵜 道広，河村 真由美
1月30日	環境のために生活の中で私たちができる事 染色実験	都甲 由紀子
1月30日	環境のために生活の中で私たちができる事 染色実験	都甲 由紀子
1月31日	授業研究	渡邊 大貴
2月4日	教育実習ＷＧ	麻生 良太，御手洗 靖
2月11日	廃材アートについて ゲストティーチャー	杉山 昇太郎
2月19日	授業参観・事後研	川嵜 道広

3　附属中学校

1.学校の教育目標

自主自律の精神の下，高い学力・深い愛の心・堪え忍ぶ力を兼ね備えた気品ある附中生の育成

2.研究テーマ

見通しと振り返りの往還による授業改善

～「思考力・判断力・表現力等」の評価方法の充実～

3.研究内容・研究方法

今年度は，主テーマにある“見通し”と“振り返り”の往還を教科部会及び個々が行い，“授業改善”のサイクルを構築することを目指しており，この授業改善のための視点を「『思考力・判断力・表現力等』」の評価」としている。よって，本年度は以下のことについて取り組んでいく。

(1)各教科における授業改善

〇教科ごとの「授業改善のイメージ」を作成する。

今年度の軸となる単元・内容(公開研にて実施)の決定とそこに向かうための各学年の年間計画。

〇教科ごとの授業改善のために，次の３つを踏まえた授業を実施し，振り返りを行う。

①「思考力・判断力・表現力等」の育成を可能にする活動の設定。

②「思考力・判断力・表現力等」の見取りを可能にする評価資料(ワークシート等)の工夫。

③B・Aの判断基準の事前の設定。

(2)各自における授業改善

〇年間計画の作成 ※教育課程の年間計画の理解

〇単元プランシートの作成

※公開研の授業に活かす単元は必ず。それがない場合にも，半期に一回は必ず。

〇活動および評価資料の工夫

〇授業の振り返り→次の実践の改善

＜大学―附属中学校との連携の実際＞

月　日	実　施　内　容	大学教員名
4 月 19 日	指導案の指導助言 ・附中職員３名と実施	川嵜 道広
4 月 19 日	指導案の指導助言 ・附中職員３名と実施	河村 真由美
5 月 10 日	指導案の指導助言 ・附中職員３名と実施	川嵜 道広
5 月 10 日	指導案の指導助言 ・附中職員３名と実施	河村 真由美
6 月 28 日	指導案の指導助言 ・附中職員３名と実施	川嵜 道広
6 月 28 日	指導案の指導助言 ・附中職員３名と実施	河村 真由美
8 月 19 日	指導案の指導助言 ・附中職員３名と実施	川嵜 道広
8 月 19 日	指導案の指導助言 ・附中職員３名と実施	河村 真由美
9 月 20 日	授業の指導助言 マット運動 ・生徒３６名で実施	大塚 道太
9 月 20 日	授業の指導助言 「読むこと」「書くこと」 ・生徒４０名で実施	麻生 雄治
9 月 20 日	授業の指導助言 自然環境と人間 ・生徒４０名で実施	三次 徳二
9 月 20 日	授業の指導助言 二次方程式	川嵜 道広

	・生徒４０名で実施	
9 月 20 日	授業の指導助言 二次方程式 ・生徒４０名で実施	河村 真由美
9 月 20 日	授業の指導助言 表現の工夫 ・生徒４０名で実施	栗栖 由美子
9 月 20 日	授業の指導助言 日本の諸地域 ・生徒４０名で実施	渡邊 大貴
9 月 20 日	授業の指導助言 「レポートを書く」 ・生徒３６名で実施	花坂 歩
11 月 18 日	公開研究授業の分析 ・附中職員３名と実施	川嵜 道広
11 月 18 日	公開研究授業の分析 ・附中職員４名と実施	河村 真由美
1 月 16 日	指導案の指導助言 ・附中職員３名と実施	川嵜 道広
1 月 16 日	指導案の指導助言 ・附中職員３名と実施	河村 真由美
2 月 12 日	授業の指導助言 データの分析と活用 ・生徒３５名で実施	川嵜道広
2 月 12 日	授業の指導助言 データの分析と活用 ・生徒３５名で実施	河村 真由美
2 月 14 日	「彫刻作品を“触る”“感じる”“伝え合う”美術鑑賞」の授業開発および実践 ・本学部教員の村上佑介氏の彫刻作品を題材に、触覚を中心とした鑑賞授業 ・第 3 学年 4 クラス，全 159 名で実施	藤井 康子，廣瀬 剛， 村上 佑介
2 月 18 日	「彫刻作品を“触る”“感じる”“伝え合う”美術鑑賞」の授業開発および実践 ・故朝倉文夫氏の彫刻作品を題材に、触覚を中心とした鑑賞授業 ・第 3 学年 4 クラス，全 159 名で実施	藤井 康子，廣瀬 剛， 村上 佑介

4　附属特別支援学校

1. 教育目標

豊かに人や社会と交わり、自ら進んで取り組み、自己表現できる子どもの育成

2. めざす子ども像

・明るく元気なやさしい子
・人や社会と豊かに交われる子
・自分から進んで取り組み自己表現できる子

3. 重点的取組

(1)「目的を持つ子ども」を育てる授業作りの更なる深化・定着

◯ U-note、実践事例の作成率 100%（校長・教頭・教務主任・学部主事を除く）

①第十次研究成果の活用

・U-note を活用した一人一実践及び、実践事例の作成
・実践事例のホームページでの公開
・「公開研究会」「特別支援教育担当教員実地研修等、教育委員会主催の各種研修」での情報発信

②個別の指導計画の充実

・授業実践の PDCA を整理する「個別の指導計画」の様式の改善
・個別の指導計画の評価・改善箇所を管理職が中心にチェック

(2) 自らの可能性を発揮する小・中・高等部一貫した教育課程の編成

◯ 教育課程に位置づける指導の形態の「基本的な考え方」に、各教科の目標・内容の位置づけが明確に示されている。

※各教科等を合わせた指導の改善(4 形態)

①組織的に改善を図るための、教育課程に係る学校組織の見直し

・教育課程検討委員会の設置と定期的・計画的運用
・「各指導形態部会」「各教科部会」の設置・継続的活用

②教育課程編成スジュールの見直し

・PDCA が円滑に機能する教育課程編成スケジュール及び検討内容の提示・運用

③「教務」と「研究」が一体化した取組の推進

・各指導の形態の基本的な考え方（目標・取り上げる内容、教材、指導時数、年間の配列、他学部との連携、教科間の連携等）の改善

(3) 安心・安全な学校づくりの推進

◯非常時・災害時を想定したシミュレーション訓練　5 回以上実施

①実効性のある訓練による「危機管理意識」や「対応スキル」の向上及び危機管理マニュアルの見直し・改善

・各学部での緊急時等におけるシミュレーション訓練の実施と個別対応マニュアルの見直し
・改善した「危機管理マニュアル」「実施計画」に基づいた学校泊を想定した訓練、保護者と共同の訓練の実施と検証

＜大学―附属特別支援学校との連携の実際＞

月　日	実　施　内　容	大学教員名
9 月 13 日	・中１生徒についての教育相談 生徒の特性理解、保護者連携のポイントが明確になった。	佐藤 晋治
10 月 4 日	・高１生徒についての教育相談 対応の基本的な考え方、日頃から必要な教育的支援が明確になった。	佐藤 晋治
11 月 5 日	・高１生徒の授業観察・教育相談 対応の基本的な考え方、日頃から必要な教育的支援が明確になった。	五位塚 和也
12 月 1 日 ～12 月 13 日	学生の卒業研究として、在籍する生徒および保護者を対象として調査を実施した。 自閉スペクトラム症のある人の聴覚情報の処理に関する知見を得られた。	五位塚 和也
2 月 19 日 ～2 月 20 日	特別支援学校教諭を志望する学生の校内見学を実施した。 学生が特別支援学校での指導・支援を実地で学習し、特別支援学校教諭への志望がより強く高まった。	五位塚 和也
3 月 27 日	・小２児童についての教育相談 生徒の特性理解、保護者連携のポイントの助言をいただく予定。	佐藤 晋治

【Ⅴ　教育・研究活動】

1　学部への参与

項目	内容	担当教員
教育実習関係	教育実習事前・事後指導の企画・運営	麻生 良太
各種委員会	教育実践総合センター運営委員会委員	廣瀬 剛（委員長） 麻生 良太 森下 覚 前田 菜摘
	教師育成サポート推進室運営委員	廣瀬 剛（室長） 森下 覚 麻生 良太 前田 菜摘
	まなびんぐサポート事業運営委員	廣瀬 剛（委員長） 前田 菜摘 麻生 良太 森下 覚
	教育実習委員会	麻生 良太 前田 菜摘
	人事運営協議会委員	麻生 良太
	企画委員会委員	廣瀬 剛
担当授業科目	教師学	麻生 良太 加地 伸二 工藤 真久
	教育支援実践研究Ⅰ・Ⅱ	前田 菜摘 森下 覚 麻生 良太
	人権教育論	森下 覚
	生活（小）	麻生 良太
	小学校授業論	麻生 良太
	発達と教育の心理学Ⅰ	麻生 良太
	発達と教育の心理学Ⅱ	麻生 良太
	教育実習事前事後指導	麻生 良太
	教職展開ゼミ事前指導・事後指導	前田 菜摘

2　他学部・大学院への参与状況

項目	内容	担当教員
担当授業科目	教職大学院：教育データの分析と活用	麻生 良太
	教職大学院：子ども理解・学校生活の実践的開発	森下 覚
	教職大学院：校内研究と教職員の職能成長の実践研究	前田 菜摘
	教職大学院：教育実践研究報告書	麻生 良太 森下 覚 前田 菜摘
	福祉健康科学部：発達と学習の心理学Ⅰ	麻生 良太
	福祉健康科学部：発達と学習の心理学Ⅱ	麻生 良太
	経済学部・理工学部：教職論	前田 菜摘
	経済学部・理工学部：教育課程論	前田 菜摘
	経済学部・理工学部：教育方法論	前田 菜摘

3　県・市町村教育委員会との連携状況

県・市町村	内容	担当教員
大分県	大分県教育センター長期派遣研修生 中間報告検討会 指導助言	廣瀬 剛 麻生 良太 森下 覚
	大分県教育センター長期派遣研修生 研修成果発表会 指導助言	廣瀬 剛 麻生 良太 森下 覚 前田 菜摘
	大分県教育委員会と大分大学教育学部等との 連携協力推進協議会	廣瀬 剛
大分市	大分市現職教員教育等連携推進協議会 作業部会	麻生 良太 森下 覚 前田 菜摘
	大分市現職教員教育等連携推進協議会 専門部会	廣瀬 剛 麻生 良太 森下 覚 前田 菜摘

4　附属学校園との連携

校園名	内　　容	担当教員
附属学校園・学部・大学院	王子キャンパス会議	廣瀬 剛
	学部・大学院・附属学校園連携委員会	廣瀬 剛
	共同教育研究推進委員会	廣瀬 剛
	四校園協働研究推進委員会	廣瀬 剛

5　社会貢献

内容	担当教員
大分県歯科医師会 歯と口の健康図画ポスターコンクール 審査員	廣瀬 剛
混浴温泉世界実行委員会 委員	廣瀬 剛
大分県障がい者芸術文化推進会議 委員	廣瀬 剛
大分県立芸術文化短期大学 非常勤講師	廣瀬 剛
放送大学大分学習センター 非常勤講師	廣瀬 剛
宇佐市障がい者芸術文化活動支援事業 社会福祉法人清流会 相談支援事業所ルポーズ主催「アトリエぐぅ」造形ワークショップ講師	廣瀬 剛
おおいた障がい者芸術文化支援センター アウトリーチ事業 美術ワークショップ講師	廣瀬 剛
おおいた障がい者芸術文化支援センター 調査・発掘事業（人材発掘）調査員	廣瀬 剛
「生涯を通じた障がい者の学び支援事業」大分大学生涯学習講座 アートワークショップ講師	廣瀬 剛
大分大学 STEAMLab.クリエイティブ講座ワークショップ講師	廣瀬 剛
大分県広告美術協同組合　屋外広告物講習会講師	廣瀬 剛
公益財団法人日本グラフィックデザイン協会大分地区 JAGDA 大分　こどもデザインワークショップ講師	廣瀬 剛
エフエム大分番組審議委員	森下 覚
大分県安全運転管理者講習　講師	麻生 良太 森下 覚
大分県立情報科学高等学校 総合的な探究の時間の進め方、評価方法、教員向け研修等における助言	前田 菜摘
独立行政法人教職員支援機構「ニーズベースの研修支援モデルの構築と実装化に関する調査研究プロジェクト」フェロー	前田 菜摘

6　外部資金等導入状況

（1）科研費受給状況

研究期間	助成金名称	研究題目	研究代表者
2017 年 4 月～ 2025 年 3 月 （8 年目）	科学研究費 （基盤研究Ｃ）	共創的越境を可能にする学校インターンシップの実施体制モデルの構築	森下 覚
2024 年 4 月～ 2028 年 3 月 （1 年目）	科学研究費 （基盤研究Ｃ）	学校インターンシップにおける世代継承を促す支援体制の構築	森下 覚
2024 年 4 月～ 2027 年 3 月 （1 年目）	科学研究費 （基盤研究 C）	幼保小連携における実践事例に基づく架け橋期カリキュラム作成ツールの開発	麻生 良太
2022 年 4 月～ 2025 年 3 月 （3 年目）	若手研究	校内研究のマネジメントとその参加を通じた教師の成長に関する研究	前田 菜摘

（2）学内研究費受給状況

研究期間	研究題目	研究代表者
2024 年 4 月～ 2025 年 3 月	「教育実践総合センター・ニュース Edu-ta!」に基づいた附属学校園および地域の教育委員会等諸機関との研究・教育に関する連携強化プロジェクト（令和 6 年度教育学部・教職大学院短期プロジェクト）	廣瀬 剛 佐藤 努 廣田 秀俊 村上 重行 友成 洋 麻生 良太 森下 覚 前田 菜摘
2024 年 4 月～ 2025 年 3 月	A 高等学校における校内研修改革を通じた授業改善の取り組みに関する研究	前田 菜摘

【VI　センター刊行物】

1　教育実践総合センター紀要

種類	2024 年度　第 42 号　掲載論文	執筆者
原著	「思考力，判断力，表現力等」を単元構成の出発点とした小学校体育科「ボール運動」の授業実践 －生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現に向けて－	丸小野 聡暢 大塚 道太
原著	小学校教師による自主的な学習会の意義と課題 －特別活動の学習会に関するウェブ調査の検討－	長谷川 祐介 藤村 晃成
原著	幼児期の育ちを支える保育実践の検討 －領域「言葉」と「人間関係」の視座から今後の幼児教育のあり方を考える－	吉田 茂 齊藤 友子
原著	初等教育教科に関する科目「音楽」における e ラーニング教材の開発	栗栖 由美子
原著	教育分野における生成 AI の利活用に向けた課題の検討 －ICT 活用の現状を踏まえて－	八尋 隆明 麻生 良太 溝上 義則

2　Edu-ta!　センター・ニュース

「教育実践総合センター・ニュース Edu-ta!」は，本センター及び学部・大学院・附属学校園の諸活動を本学及び大分県内，全国の国立大学教育実践研究関連センター等に発信している。年に 1 度発行し，2024 年度は第 9 号（A3　8 ページ)を刊行した。

全国的には教員志望者が減少する中，大分大学教育学部では 111 名が教員採用試験を受験，107 名が合格と，合格者数，合格率ともに過去最高の結果を残している。今号では，教育実践総合センターのスタッフから学生に推したい「イチオシ」，教師育成サポート推進室事業，まなびんぐサポート事業，教育実習（観察実習）の紹介，地域の教育委員会との連携や研究支援の実績について報告している。

3　人材バンク

人材バンクは，学部・大学院研究科教員が附属学校園に貢献しうる研究領域や教育支援の内容を提供し，附属学校園の教育・研究の推進・協力を目的に，平成 17 年度に試用を始めた。

平成 28 年度からは，学部教員だけでなく，教職大学院の教員の情報，附属学校園の教員の校内の担当，専門，研究情報等も掲載し，学部，教職大学院，附属学校園だけでなく，附属学校園間の教育・研究の推進・協力も図れるようになった。

なお，人材バンクの登録状況は，次の表のとおりである。

人材バンクの登録状況

種　　別	登録者数(2024 年度)
学部・大学院研究科教員等	67 名
附属幼稚園教員	7 名
附属小学校教員	26 名
附属中学校教員	26 名
附属特別支援学校教員	28 名

【Ⅶ　施設活用（施設利用状況）】

利用目的	年 月 日	時　間	利用室名
令和６年度　第１回王子キャンパス会議	2024.04.03	13:30-16:30	多目的演習室
大学院実習科目の事前・事後指導	2024.06.13 ～2024.06.14	07:30-18:00	多目的演習室
大学院実習科目の事前・事後指導	2024.06.20 ～2024.06.21	07:30-18:00	多目的演習室
大学院実習科目の事前・事後指導	2024.06.27 ～2024.06.28	07:30-18:00	多目的演習室
大学院実習科目の事前・事後指導	2024.07.04 ～2024.07.05	07:30-18:00	多目的演習室
令和６年度　第２回王子キャンパス会議	2024.05.07	13:30-16:00	多目的演習室
令和６年度　第３回王子キャンパス会議	2024.06.04	09:30-12:00	多目的演習室
第１回　附属四校園協働研究推進委員会	2024.05.13	16:00-16:45	多目的演習室
令和６年度　第４回王子キャンパス会議	2024.07.16	09:30-12:00	多目的演習室
令和６年度共同教育研究推進委員会の開催	2024.06.11	16:00-16:50	多目的演習室

2024 年 8 月から，附属小学校改修工事に伴う備品保管のため，多目的演習室は利用不可

4　センター規程，紀要の編集・発行及び投稿に関する内規

1　大分大学教育学部附属教育実践総合センター規程

平成 28 年 4 月 1 日制定
平成 28 年教育学部規程第 12 号

（趣旨）

第 1 条　この規程は，大分大学学則（平成 16 年規則第 8 号）第 4 条第 4 項の規定により，大分大学教育学部附属教育実践総合センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

（目的）

第 2 条　センターは，教育指導及び教育臨床に関する理論的及び実践的研究を行うとともに，実践力ある教員の養成，現職教員の資質向上のための研修プログラムの開発，教育学部及び附属学校園との連携の推進並びに地域の教育委員会との連携の推進を図ることを目的とする。

（業務）

第 3 条　センターは，次の各号に掲げる業務を行う。

(1)　教育実践に関する理論的及び実践的研究
(2)　教育相談及び教育臨床に関する研究及び臨床研修の指導
(3)　教育実習の指導及び管理
(4)　学生の教育実践に対する補完プログラム及び発展プログラムの提供
(5)　学習支援ボランティアの指導体制の充実
(6)　教師育成サポート推進室に係る業務
(7)　現職教員の研修プログラムの開発
(8)　教育学部と附属学校園の共同研究の推進及び調整
(9)　地域の教育委員会との連携推進
(10)　その他センターの目的を達成するために必要な事項

（職員）

第 4 条　センターに，次の各号に掲げる職員を置く。

(1)　センター長
(2)　主担当の教員
(3)　その他必要な職員

（センター長）

第 5 条　センター長は，センターの業務を掌理する。

2　センター長の選考は，大分大学教育学部役職者選考に関する規程（平成 28 年教育学部規第 9 号）

に基づき行う。

3　センター長の任期は2年とする。ただし，再任を妨げない。

4　欠員が生じた場合の後任のセンター長の任期は，前任者の残任期間とする。

（主担当の教員）

第6条　主担当の教員は，教育研究に従事するとともにセンターの業務を行う。

（運営委員会）

第7条　センターの円滑な運営を図るため，センターに大分大学教育学部附属教育実践総合センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2　運営委員会に関し必要な事項は，別に定める。

（客員研究員）

第8条　センターに，客員研究員を置くことができる。

2　客員研究員は，センターの事業に関する研究に従事する。

3　客員研究員は，運営委員会の推薦に基づき，教育学部長が委嘱する。

4　客員研究員の任期は，1年又は6月とする。

5　客員研究員に関し必要な事項は，別に定める。

（事務）

第9条　センターの事務は，教育学部事務部において処理する。

（雑則）

第10条　この規程に定めるもののほか，センターに関し必要な事項は，教育学部長が別に定める。

附　則

この規程は，平成28年4月1日から施行する。

附　則（平成28年教育学部規程第23号）

この規程は，平成29年1月1日から施行する。

2　教育実践総合センター紀要の編集・発行及び投稿に関する内規

（趣　旨）

第１条　この内規は，大分大学教育学部附属教育実践総合センター（以下「センター」とする）の研究紀要「教育実践総合センター紀要（別称：大分大学教育学部附属教育実践総合センター紀要）」（以下「紀要」とする）の編集・発行及び投稿に関し，必要な事項を定めるものとする。

（収録内容）

第２条　紀要は，未発表の発達教育臨床（教育臨床心理・発達障害臨床），教育実践開発（教育実践研究・教育情報システム）に関する原著論文，資料，寄稿，及び客員研究員研究報告を掲載するものとする。

2　原著論文は発達教育臨床，教育実践開発の発展に顕著な貢献が認められると判断された学術論文を示す。

3　資料は実践事例，調査，実験，理論等に関するレポートを示す。

4　寄稿は大分大学教育学部附属教育実践総合センター紀要編集委員会（以下「編集委員会」とする）の依頼に基づき掲載する論文や講演録等を示す。

5　客員研究員研究報告はセンターの客員研究員が長期研修で取り組んだ実践事例，調査，実験，理論等に関するレポートを示す。

（発行）

第３条　紀要は，原則として年１回（3 月）発行する。

（編集委員会）

第４条　紀要の編集は，編集委員会が担当し，その事務はセンターの主担当教員が行う。

（審議事項）

第５条　編集委員会は，次の各号に掲げる事項を審議する。

一　投稿原稿の採否に関すること。

二　その他紀要の編集・発行及び投稿に関すること。

（組織）

第６条　編集委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。

一　センター長

二　センターの主担当教員

三　センター運営委員から選出された学部教員２人及び附属教員２人

2　前項第 3 号の委員について，原則として，学部教員から選出される委員はコース運営委員会の代表と副代表とする。また，附属教員の任期は２年とする。ただし，再任を妨げない。

3　補欠の委員の任期は，前任者の残任期間とする。

（委員長）

第 7 条　編集委員会に委員長を置き，センター長をもって充てる。

2　委員長は，編集委員会を招集し，その議長となる。

3　委員長に事故があるときは，あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。

（会議）

第 8 条　編集委員会は，委員の過半数の出席がなければ，議事を開き，議決することができない。

2　編集委員会の議事は，出席した委員の過半数をもって決し，可否同数のときには，議長の決するところによる。

（委員以外の者の出席）

第 9 条　編集委員会が必要と認めるときは，委員以外の者を出席させることができる。

（投稿資格）

第 10 条　投稿者は，投稿日において次の各号の一に該当する者とする。

一　単著の場合は，教育学部及び大学院教育学研究科の主担当教員または附属校園の教員であること。

二　共著の場合は，筆頭著者もしくは連名著者が前号に該当していること。

三　その他，センター長が特に許可した者であること。

2　単著の著者及び共著における筆頭著者と投稿者は，投稿日において別に定める研究倫理教育を受講していること。

（閲読者）

第 11 条　閲読者は 2 名とし，次の各号のいずれかに該当する者とする。ただし，2 名の内の 1 名は教育学部及び大学院教育学研究科の主担当教員とする。

一　教育学部及び大学院教育学研究科の主担当教員であること。

二　附属校園の教員であること。

三　その他，センター長が特に許可した者であること。

（編数及びページ数）

第 12 条　投稿できる編数は，単著の場合，1 人 2 編までとする。ただし，第 1 報目と第 2 報目を同時に投稿することはできない。

2　ページ数は，日本文（横書き・縦書き）・欧文ともに，和文抄録（日本文の場合のみ）・英文アブストラクト・図表等を含め，原則として，完成原稿 16 ページを限度とする。

（原稿の提出）

第 13 条　原稿は，次の各号をすべて満たしているものとする。

一　ワープロソフトを使用し，書式に従って作成したものであること。

二　別に定める「教育実践総合センター紀要執筆要項」に基づいていること。
三　図表等も含めた原稿を，2部印刷していること。

2　提出の際は，印刷した原稿（2 部），投稿カード，誓約書等の必要書類をセンターに学内便で提出するものとする。同時に，原稿のデータを電子メールでセンターまで送るものとする。

3　原稿提出の締切は，毎年度 11 月 30 日とする。ただし，締切日が土曜日，日曜日等の休日にあたるときは，当該休日後の最初の日とする。

（原稿の修正）

第 14 条　投稿後の原稿の修正は，次の各号の一に該当するとき以外は認めない。ただし，いずれの場合にあっても，著者が確認して修正するものとする。

一　閲読の結果，閲読者から修正を求められたとき。
二　その他編集委員会が必要と認めたとき。

（校正）

第 15 条　校正は，原則として著者が再校まで行うものとする。ただし，校正時の原文の変更は認めない。

（論文の公開）

第 16 条　掲載論文等については，インターネットを介して学内外に公表する。

（著作権）

第 17 条　掲載された論文等の著作権は，センターに帰属する。なお，著者はセンターに帰属する著作物を自ら利用することができる。

附　則

この内規は，平成 13 年 10 月 19 日から施行する。

附　則

この内規は，平成 22 年 6 月 21 日から施行する。

附　則

この内規は，平成 23 年 2 月 16 日から施行する。

附　則

この内規は，平成 24 年 5 月 23 日から施行する。

附　則

この内規は，平成 28 年 5 月 25 日から施行する。

附　則

この内規は，令和 2 年 5 月 25 日から施行する。

附　則

この内規は，令和 3 年 5 月 28 日から施行する。

附　則

この内規は，令和 5 年 6 月 20 日から施行する。

附　則

この内規は，令和 6 年 5 月 28 日から施行する。

附　則

この内規は，令和 7 年 6 月 20 日から施行する。

（令和 7 年 6 月 20 日 紀要編集委員会決定）

2024（令和６）年度
教育実践総合センター運営委員会委員

廣瀬 剛（センター長）

麻生 良太

大野 貴雄

藤原 耕作

佐藤 努

廣田 秀俊

村上 重行

友成 洋

森下 覚

前田 菜摘

教育実践総合センターレポート第 45 号

2025（令和７）年７月
編集発行　大分大学教育学部附属教育実践総合センター
代表者　廣瀬 剛

〒870-0819 大分市王子新町１番１号
Tel 097-543-4933
Fax 097-543-4936
https://www.ed.oita-u.ac.jp/shisetsu/center/

表紙デザイン：廣瀬 剛